

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	商学部
大項目	0 理念・目的
中項目	
小項目	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
要素	理念・目的の明確化 実績や資源からみた理念・目的の適切性 個性化への対応
小項目	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
要素	構成員に対する周知方法と有効性 社会への公表方法
小項目	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
要素	

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。

進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 大項目1～13に関して設定した諸目標を達成することによって、本学部の使命・目的を実現する。	→大項目1～13において掲げられた諸目標に関して、それらの達成度の維持・向上。	B	C			
2. カリキュラムや教員組織等が商学部の使命・目的に照らして妥当か否かに関して、常時継続的な検証努力を行う。	→妥当性の常時継続的検証のための会合開催回数。	B	C			

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
特になし。	→					
	→					

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目0.0.1	0.0.1 大学・学部・研究科等の理念・目的は、適切に設定されているか。
	(理念・目的の設定の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→ <input checked="" type="radio"/> 理念・目的を設定している <input type="radio"/> 理念・目的を設定していない
	(理念・目的) 理論と実践の関連を重視しつつ、経済活動の担い手たる企業や個人の多様でダイナミックな活動を、商学の視点から多面的に考察する。複雑な諸相をもつ社会の中で、機能や利害を異にする他の多くの主体との相利共生を創造的に図ってゆく能力を持つビジネス・パーソンを育成する。 (説明) 2009年4月に明確化し、学則の別表に掲載している。また、Webへの記載内容等について懇談が行われている。
小項目0.0.2	0.0.2 大学・学部・研究科等の理念・目的が、大学構成員（教職員および学生）に周知され、社会に公表されているか。
	(周知・公表の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 周知・公表している <input type="radio"/> 周知・公表していない
	(説明) 大学学則に掲載すると共に、学部オリエンテーションなどにおいて学生に周知している。また、大学ホームページにも掲載している。
小項目0.0.3	0.0.3 大学・学部・研究科等の理念・目的の適切性について定期的に検証を行っているか。
	(検証の有無) いずれかにチェックしてください。 →→→→→→→→→→ <input checked="" type="radio"/> 検証している <input type="radio"/> 検証していない
	(説明) 理念・目的は大きな変更を行う場合を除き、内容の維持が必要であると考えられる。その意味では、現状で大きな変更を加える方向性は出ていない。新カリキュラムならびにディプロマ・ポリシーを検討中であり、その際にも商学部の使命・目的を十分に斟酌して討議が行われている。
その他	

《評価指標データ》

本学の育成した人材（卒業生）に対する社会（企業）の評価

卒業生がどの程度スクールモットー(マスタリー・フォア・サービス)をどの意識しているか【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人の比率【基本的な基礎データ】

卒業生のうち、自分の子供等、身内に関学への進学を勧めたいと思う人で、「スクールモットーに共感できる」ことをその理由とする人の比率

在学生のうち「この大学で人生の一時期を過ごすことが、将来にとって役立つと思う」人の比率

理念の周知について(1)－理念・教育目標を宣布する発行物・行事などの種類・数

理念の周知について(2)－総合コース「『関学』学」の履修者数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(1)】効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	
小項目0.0.2	
小項目0.0.3	
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

【点検・評価(2)】改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目0.0.1	理念・目的は設定されており、内容の確認は教員については行われているが、学生への周知、内容の伝達等は不十分である。
小項目0.0.2	学則、Web等への記載は行われているが、学部としての学生との接点は入学式程度しかなく、必ずしも周知されていない。
小項目0.0.3	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目0.0.1	学部としての学生への周知・普及の方法の検討が望まれる。
小項目0.0.2	学部としての学生への周知・普及の方法の検討が望まれる。
小項目0.0.3	
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

その他 (自由記述)	2011年度に商学部のディプロマ・ポリシーを策定すること、ならびに2012年度から商学部のカリキュラムを全面的に改訂することとなったことを受け、これらを学生に周知徹底する必要があるため、そのための機会を新たに設け、そこにおいて商学部の理念・目的を学生に周知・普及を図る努力を行うことにしたい。
---------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

＜評価専門委員会の評価＞

【学外委員】

○学部の理念・目的については、様々なツールで学生への周知を図るとともに、ディプロマポリシー、カリキュラムの充実等によって具体化され学生の身につくことが望まれます。

【学内委員】

○目標1, 2とも昨年度に比して進捗評価が下がっていますが、その理由は何でしょうか。

○現状説明の小項目0.0.1にある「Webへの記載内容等についても懇談が行なわれている」という記述と、小項目0.0.2の「大学ホームページにも掲載している」という記述の関係はどうなっているのでしょうか？ 小項目0.0.3の現状説明は、ここで求められている「定期的な検証」についての説明になっていないのではないのでしょうか。改善すべき事項の小項目0.0.1の内容は、小項目0.0.2に統合するべきでしょう。また、改善方策が「検討が望まれる」というのは不適切であると考えます。

○すでに2010年8月更新の商学部のホームページに教育理念、教育目標が公表されており、教育情報の公表に伴い、関西学院のホームページにおいてもリンクされています。従って、「Webへの記載内容等についても懇談・・・」については補足説明が必要です。

○改善すべき事項にもあげられているとおり、理念・目的の周知は難しいですが、今後はそれを測る方法を検討され、検証から改善に繋がってください。

○昨年度の次のコメントは本年度もそのままコメントとします。

・理念・目的はそう簡単に変更するものではありませんが、定期的な検証は必要です。カリキュラム検討の際の付随的な検証も必要ですが、主課題として定期的な検証を望みます。

・小項目0.0.3の現状説明は、「理念・目的の適切性についての定期的検証」の現状説明にはなっていないのではないのでしょうか。

・目標2は使命・目的の妥当性検証ではなく、カリキュラム、教員組織の検証ですので、別項目の目標とすべきではないのでしょうか。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目0.0.1

基盤評価：「学部、学科または課程ごとに、大学院は研究科または専攻ごとに、人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的を学則またはこれに準ずる規則等に定めていること」「高等教育機関として大学が追求すべき目的を踏まえて、当該大学、学部・研究科の理念・目的を設定していること」

達成度評価：「建学の精神、目指すべき方向性や達成すべき成果等を明らかにし、当該大学、学部・研究科の理念・目的として適切である」

○小項目0.0.2

基盤評価：「公的な刊行物、ホームページ等によって、教職員・学生、受験生を含む社会一般に対して、当該大学・学部・研究科の理念・目的を周知・公表していること」

達成度評価：「理念・目的の周知・公表に関する各種方策（周知・公表の有効性や方法の適切性等の定期的な検証・改善など）をとり、当該大学に対する理解向上につながっている」

○小項目0.0.3

基盤評価：なし

達成度評価：「検証を実施する体制を整備し、責任を明確にするなどしたうえで、理念・目的の適切性について、恒常的かつ適切に検証を行っている」

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★ 目標1, 2に関して、前年度に比して評価が下がっている理由は、2010年度としての単年度だけで評価してしまったためであり、決して後退したということではない。2009年度の積極的な動きと2010年度の動きとを単年度比較したため、2010年度の動きを控えめに評価したことによるものである。2009年から2010年までの進捗という意味では、両目標とも「B」評価とすべきであった。また、商学部において設置している情報関係の委員会において大学のホームページにおける記載内容等に関して種々検討し、執行部においてもこれに関して議論を繰り返した。その結果として、最終的に教授会での承認を得て、現在の開示内容となっている、ここで指摘してすべき点は、カリキュラムの再編に際して、数々の議論を学部執行部会、カリキュラム委員会等の学部内の各種委員会ならびに教授会において展開したが、商学部教授会での共通認識は、現在学部が掲げている理念・目的は適切であり、その変更は必要ないというものである。理念・目的は毎年、全専任教員によって議論するような性質のものではないため、今後もこれまで通り、執行部を中心に定期的に検証し、改善等が必要な場合には関連する諸委員会での検討を経て、教授会にて改正して行く。なお、理念・目的の学生への周知に関しては、入学式直後に開催しているオリエンテーションの場において必ず新生全員に解説するとともに、毎年全学生に対して配布している『履修と学習の手引き』においても詳細に説明している。